

平成25年度の事業に向けて



代表理事 大槻眞一

少子高齢化が取り沙汰されて久しい。これからも少子高齢化は進む。まさに長期不変の「時代のトレンド」である。少子高齢化は国内市場を狭め、労働力の不足をきたす。中小企業

の経営者の目は海外の市場に注がれ、あるいは、有能な外国人の雇用を求める。かくして、人、もの、金が自由に国境を越える国際化も「時代のトレンド」となる。

いま、KIACは、これまでの中小企業支援の輪を広げて、地域の核たる大学を支援し、地域振興に努める地方自治体との連携を目指している。

KIACにはさまざまなスキルとエネルギーがあり、企業や地域と共に全力で「時代のトレンド」に立ち向かう所存である。

広く皆様方のご理解とご支援を心からお願いしたい。

第4回定時社員総会開催

平成25年6月13日(木) 17時30分～18時
中央区大手前の国民會館住友ビル12階小ホールにて開催。

第1号議案 第3期(平成24年度)事業報告、収支決算報告、監査報告

第2号議案 第4期(平成25年度)事業計画、収支予算

第3号議案 理事及び監事の選任が承認された。

その後、PREX・KIAC友好協定調印式が執り行われ、18



時30分から20時まで関係官公庁や連携団体関係者など約60名が参加し懇親会を行った。

平成25年度実施の方針

平成24年12月発足の安倍政権のもと、経済環境はアベノミクスへの大きな転換で株価及び為替はリーマンショック以前のレベルにまで戻った。これらは期待感を反映したものとされているが、これを着実に実体経済へ反映させるべく様々な施策が国から打ち出されている。

KIACは新たな自主事業の検討をすると同時に、これら国の施策を有効に活用し、中小企業の事業支援や大学の教育自体を含め学校運営における側面的支援活動を積極的に行う。尤も我々を取り巻く社会経済環境の厳しさは依然変わりなく、昨年度に引き続き再生可能エネルギーの開発と活用、中小企業における更なる海外展開への飛躍、次世代を担う人材の育成などなど、国の方針とベクトルを合わせ、足元の地域経済活性化に寄与すべく本年度も数々の事業を立案し遂行する。

PREX・KIAC友好協定調印について

事務局長 鳥居純一

平成25年6月13日のKIAC定時社員総会の後、参加者約60名を前にしてPREX(太平洋人材交流センター)との調印式が挙行された。

PREXはODA資金を活用し海外からの人材研修を二十数年にも亘って実施、現在その卒業生は世界各地に於いて重要な社会的ポジションで活躍中。これらの卒業生が各地で同窓会を結成、KIACはこの貴重な海外人脈を有するPREXと手を結ぶことで、日本の中小企業海外展開と現地産業貢献に大きく寄与するものと考え、友好協定を締結した。

調印式はPREXからは会長の井上義國氏(元ダイキン副会長)、KIACからは代表理事の大槻眞一が署名、この内容は7月1日付の産経新聞に掲載された。(4面に掲載)



K I A C 事業紹介

24 年度の総括と 25 年度の取り組みと方向性

1 ビジネスマッチング事業

担当理事 福井英志・富永安治

今期のビジネスマッチングは、昨年度に引き続きそのマッチング率向上を第一目標にプレゼン会を開催します。

具体的には、1) プレゼン会(販路開拓など)を通じて、中小企業の支援 2) 中小企業のマッチング活動 3) 人と人の輪を広げ情報共有の場の提供 4) 情報交換や販路開拓などの活動により事業の成約にあります。実施は、今年度 3 回開催し、1 回当たり 2 社の会社のプレゼン実施を行います。

この活動は、成約率の向上活動を通じ、参加企業の育成とその支援や、プレゼンターの質の向上につなげるものと確信しています。

プレゼン会の第 1 回目は、6 月 26 日(水曜日)に商縁プラザとの共催で開催しました。当日は、60 名弱の出



席者があり大変盛況でした。次回は、10 月と来年 2 月の第 4 水曜日の 18 時から開催すべ

く計画しています。

これら開催は、主担当が商縁プラザ、サブが近畿産業技術クラスター協同組合(KSTC)で行い、開催場所は、毎回大阪駅前第一ビル 11 階の神戸大学セミナールームを予定しています。

プレゼン会の後は、プレゼン会社関係者やプレゼン会出席者と共に懇親会を行い、更なる親睦と情報交換を行うことにより効果的なプレゼン会としています。

2 専門家紹介事業

担当理事 野田 浩志

中小企業が抱える製品・技術開発、生産技術、販路開拓、経営問題など様々な経営課題を K I A C の会員 6 団体に登録されている約 250 名の企業 OB 等が現役時代に培われた様々の業界・専門分野での経験、知識、技術、人脈を活かして解決の支援をするものです。

特に、今後の成長が期待される東南アジアなど振興市場への海外展開の支援にも力を入れています。ご相談には近畿各地の活動拠点を置く会員 6 団体や阪南大学中小企業ベンチャー支援センター、公的な支援機関や金融機関を含む認定支援機関などにご一報ください。必要に応じて上記支援機関と連携して対応します。

3 創業補助金事業 (NBK 事業)

担当理事 神吉 正弥

アベノミクスによる経済発展を促進する補助金事業の一つとして、「地域需要創造型等起業・創業促進事業」(略称; 創業補助金) が平成 24 年度補正予算として出されることが決まり、その大阪府事務局(各都道府県に 1 団体の地域事務局)の公募があり、関西ニュービジネス協議会(略称; NBK)の要請により、申請書類の作成と予算案の作成を行った。その結果、3 月 22 日夜に大阪府事務局として採択された。

K I A C からは数名の人材が本事業事務局の業務を実施しております。

本事業は 3 月 22 日から始まり、平成 26 年 12 月末日で終了しますが、大阪府事務局としては、創業補助金を 765 社に採択する予定で事業に取り組んでいます。公募は 3 回に亘って行われますが、第 1 回公募では採択者 21 社と出足は遅かったものの、第 2 回公募では約 160 社の応募があり、全国でも東京都に次いで 2 番目の多さとなりました。採択者数は近く決定され、ウェブ上に公開されます。

第 3 回公募が 9 月 19 日から 12 月 24 日に行われますが、目標に近づけるよう活動中であり、引続き皆様からも本事業の普及促進をいただくよう宜しくお願い申し上げます。

4 大学支援事業

担当理事 山崎健一郎

今年度は、これまでの「キャリア教育事業」と合わせて、昨年 6 月に文部科学省から出された「大学改革実行プラン」に対して、K I A C としてどの様な支援が出来るのかを検討するために 3 月に「大学改革支援プロジェクト」を発足させた。

今回の大学改革実行プランの柱の一つである「地域再生の核となる大学づくり」では、大学に地域との連携強化を求めている。

KIACは、大学と地域（自治体・中小企業）との繋がりをサポートして行くためのプログラムを提案書としてまとめた。

このプログラムは多くの関係先（中小企業家同友会・太平洋人材交流センター等）と連携し、支援を頂きながら推進して行く事になる。今後、大学への提案活動を順次行い、実績を一つずつ積重ねて行きたい。

5 海外支援事業

事務局長 鳥居純一

平成24年度はIBPC関連を中心に活動する一方、海外展開支援組織（海外サポートセンター〈略称：海外SC〉）の構築準備を行い、本年7月26日にキックオフした。海外SCは独自の支援事業を展開する他、公的機関とのシームレスな海外支援を目指しており近経局、中小企業基盤整備機構、PREX等と連携し事業活動を実施致します。

外国での展示会を具体例に上げると、出展準備から現地での商談、展示会後の相手との交渉や契約締結に至るまでの一貫した支援を行うものである。

今後の益々高まる海外事業展開のニーズに対応できる体制が構築されたので、KIAC会員の活動する場が今迄以上に大きく広がることが期待できる。

6 セミナー事業

担当理事 増本 光男

KIACセミナーは、年次拡大している中堅・中小企業への支援活動をテーマとし、且つ傘下団体活動員の充実を目指しているが、特に今回はグローバル化の波が関西の中小企業にも押し寄せている中で、「東南アジア進出 戦略セミナー」と題し、近畿経済産業局・大阪商工会議所との共催、産経新聞社などの後援を得て、約130人を集めて3月1日開催した。

今回のセミナーは、領土問題の長期化や中国経済の成長に伴う人件費の高騰による中国進出リスクの高まりから、東南アジアに注目する関西の企業が急増している現状を受け企画され、製造業に留まらずサービス産業など広範な業種からの参加も多数みられ大盛況であった。

冒頭、大槻眞一代表理事は、関西が歴史的にも密接な関係を持ち経済成長が著しいASEAN諸国の活力を取り込んでいく意識を持つことが肝要と挨拶。

講演では、大学から安積敏政甲南大学教授が、また中小企業経営者から、中央電機計器製作所の畑野吉雄会長が、それぞれ各国の生産拠点や市場としての成長性、及び求められる人材などについて、貴重でホットな情報の提供があった。近畿経済産業局の青井登志子国際課長からは、近畿地域の中小企業海外展開支援事業について、詳細な政策の説明がなされた。

25年度についてもKIAC及び各団体の会員増強という当初の目的を達成するべく今回の改善点等も踏まえてさらに充実させていきたい。



3月1日 セミナー風景

7 オープンイノベーション事業

栗野順二郎

過去2年間の実績を基に平成24年度は「オープンイノベーション事業推進のための普及啓発事業調査」という新たな事業を受託し、中堅企業に特化した事業の成果報告は、多くの皆さんから高い評価を得た。

平成25年度は、「オープンイノベーション事業マッチング実践事業調査」を受託。本事業は、①マッチングフォローアップ事業、②新規ニーズの収集及びマッチングの実施事業、③西日本広域コラボに向けた検討会の実施、④コーディネータ会議の実施の4つである。KIACでは、全国公的企業支援組織が独自に構築したシーズデータベースとリンクする技術開発支援サイト“KNOW-MA”の活用を今回の特色にしている。

8 プラットフォーム構築 新規事業

会員増強による財政基盤を構築しKIACの高次元事業への足場作りとブランドイメージの向上を目指す。具体的には賛助会員（対象は金融機関、官公庁出先機関及び大企業等）や団体会員の戦略的増強を通じ会費収入の増加を図る一方、メンバーの豊富な経験による提言や企画提案による新たな事業を創出する。

25年度新体制

代表理事 大槻 眞一
 理事 山崎 健一郎 理事 吉田 丹治
 理事 富永 安治 理事 野田 浩志
 理事 神吉 正彌 理事 谷 巖夫
 理事 増本 光男 理事 宮田 實
 理事 福井 英志(新)
 監事 鈴木 邦明(再) 監事 須藤 英治



写真 新体制メンバー

【顧問・アドバイザー】

顧問 水田 和夫(神戸商工会議所)
 顧問 高田 弘 (前K I A C事務局長)
 顧問 成田 欽史郎(前K I A C理事)
 アドバイザー 須山 稔(近畿経済産業局)

会員状況

【正会員】

NPO法人 チャレンジ企業支援隊
 近畿産業技術クラスター協同組合
 NPO法人 商縁プラザ
 NPO法人 産業人OBネット
 G-MAC LLP
 プロエンジェル会 LLP

【一般会員】

ティーベション株式会社
 協同組合 戦略プランナー21
 株式会社 レーベン

【賛助会員】

阪南大学
 羽衣国際大学
 コンソーシアムDブレイン

産経新聞社が中堅・中小企業のモノづくり企業を応援する「がんばれ！！ものづくり日本関西情報サロン」第19回会合が開催され講演

7月31日 産経新聞社大阪本社大会議室においてPREXとKIACの友好協定調印を記念し「中小企業グローバル化支援」をテーマに講演会が開催された。大槻眞一代表理事と岡田義久海外支援担当が「中小企業が海外進出する前に知っておきたいこと」

井上義國 PREX 会長が「中堅・中小企業のグローバル化とPREXの役割」について説明。



産経新聞7月1日掲載版

【知と技のコラボ がんばれ ものづくり日本】

「グローバルな人材育成支援や大学・地域産業の振興を目的に提携する」という友好協定の趣旨からKIACとRREXのそれぞれの組織と事業内容について詳しく説明。豊富なネットワークを持つ両組織の連携が、関西の中小企業のグローバル化や人材交流の促進にもたらす相乗効果は大きく、今後の活動に期待が寄せられていると大きく紹介された。

同時に大槻眞一代表理事へのインタビュー記事で「関西の中小企業が海外展開や海外進出を成功させるポイント」としてグローバル化がカギで特にアジア、中でもASEAN諸国は経済成長著しくその活力を取り込む事を意識する事。

また、「グローバル化成功のポイント」として自社の強み弱みを把握したうえで、多角的に情報を入力するなど入念な事前準備を上げ、そのためにも両組織の持つネットワークを活用してもらうことが今回の提携のメリットである事を強調されました。

